



TITLE:

[宮繕工事]花山天文台

AUTHOR(S):

CITATION:

[宮繕工事]花山天文台. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告
2004, 2003年(平成15年): 48-49

ISSUE DATE:

2004-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172255>

RIGHT:

平成 16 年 3 月 飛騨天文台フレアー監視望遠鏡電源ケーブル更新工事

フレアー監視望遠鏡の電源ケーブルが、設備の増加等により容量不足となり、電気室内に分電盤を新設し、フレアー監視望遠鏡に至るケーブルを容量の大きなケーブルに更新する工事を行いました。これにより、今後の設備増加にも十分対応が可能となりました。

平成 16 年 3 月 飛騨天文台 65 cm 棟暖房設備取替え

飛騨天文台 65 cm 棟暖房設備が老朽化により、故障の多発や騒音により業務に支障を来していたため、65 cm 棟内各研究室、仮眠室の電気暖房機を更新しました。

(石浦、木村)

7.2 花山天文台

1. 70 cm シーロスタット太陽望遠鏡司令室拡充

太陽光の分光スペクトルは CCD カメラで撮像され、直接パソコンに記録しています。従来、司令室より望遠鏡を制御していましたが、データを記録するパソコンは別室に置かれていたため、データの即時性が問題となっていました。そこで、司令室の隣室の壁を取り払い、一つの司令室として使用することにしました。これにより、観測の際に煩わしかった望遠鏡の制御とデータの取得が速やかに行えるようになりました。



(左) 工事施工前

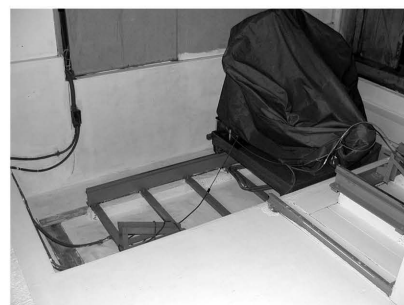


(右) 施工後

2. 70 cm シーロスタット太陽望遠鏡床塗装

昭和 36 年の建設当時よりコンクリート地が剥き出しになっていましたが、これを白色に塗装しました。

コンクリートの劣化により浮き出てくる砂塵の光学機器に与える影響が危惧すること、太陽の観測に際して、太陽光によって望遠鏡の床が熱せられ、陽炎が上れば正確な観測データが得られにくくなることが危惧されていました。この塗装は、塗料の膜によって砂の浮き出るのを抑え、白色にすることで太陽光による熱の吸収を抑えて陽炎の発生を防ぐのが目的です。



3. 太陽館床張替え

経年変化により硬化したPタイルがひび割れたり、はがれたりしてきたために張り替えました。張り替えた場所は、司令室、観測準備室、廊下と大分光観測室の一部です。



(左) 工事施工中



(右) 工事完了

(吉永)